

【小施策評価(令和元年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

| | | | | |
|------|-----|-----------------|------------------|-------------------|
| 基本目標 | 1 | 人がいきいきと暮らすまちづくり | 小施策 主管課等 | 健康増進課 |
| 施策 | 4 | 健康づくり・医療の充実 | 評価 責任者 | 澤口 佐知子 内線 6220 |
| 小施策 | 4-1 | 健康の保持増進 | 評価 シート 作成者 | 小川 睦子 内線 6220 |

小施策の概要

| | | |
|--|---|--|
| 現状と課題(総合計画実施計画から転記) | ⇒ | 取組の方向性(総合計画実施計画から転記) |
| 生活習慣を起因とする高血圧、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病が年々増加しており、市民自らが生活習慣を改善して発病を予防する「一次予防」と健康診査・がん検診など、受診により病気の早期発見・早期治療を進める「二次予防」に重点をおいた取組が必要である。 | | 心身ともに健康を保持し、生涯を健やかに暮らすことができるように、生活習慣病の早期発見と予防のための各種検診のほか、健康教育や訪問指導などの地域に密着した活動を推進して、市民が主体的に健康管理や健康増進に取り組める環境づくりを進める。 |
| 対象(誰(何)を対象として行うのか) | ⇒ | 意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態) |
| 市民 | | ・健康を保つ活動が行われている。・病気になるようにする。・受診できる。 |

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

| 実績値の推移 | | | | 実績の評価 | | |
|-----------|----------|-------|-------|---|-------|--|
| | | | | 成果点 | ⇒ | 成果の要因分析 |
| 指標① | 健康教育参加者数 | 単 位 | 目指す方向 | | | |
| | | 人 | → | | | |
| 当初値 (H25) | 7,996 | R1目標値 | 8,800 | R6目標値 | 8,800 | |
| | | | | | | |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・64歳以下を対象とする教室の参加者が38人増加するなど、若い世代の参加が増えた。 ・公募型協働推進事業を活用し、青年期・壮年期の働き世代を対象に土・日の教室を開催した。 ・生活習慣病予防全般やもりおか21プランの推進、ロコモに関する内容の教室を多く開催した。例年あまり実施しなかった「COPD」や「心の健康」についての健康教育も行った。 ・もりおか得々ポイント事業のポイント教室を増やした。 | ⇒ | <ul style="list-style-type: none"> ・もりおか21プランの中間評価により、今まで足りなかった内容を意識して取り入れた。 ・興味を持つようなデザインのチラシに刷新したり、SNSでの周知により、若い世代の参加者が増えた。 |
| | | | | 問題点 | ⇒ | 問題の要因分析 |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数が昨年度より651人減少した。 ・新型コロナウイルス感染予防対策により各種教室が実施出来てない。 | ⇒ | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のため3月分の実施が出来ず、参加者数が減少した。 ・感染症の発生状況により、対象人数や、会場設定など再検討し、感染予防を徹底して開催しなければならない。 |
| 指標② | がん検診受診率 | 単 位 | 目指す方向 | | | |
| | | % | ↗ | | | |
| 当初値 (H25) | 22.1 | R1目標値 | 40.0 | R6目標値 | 40.0 | |
| | | | | | | |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・各種がん検診を予定どおり実施した。 ・全市(玉山地域を含む)の受診率は平成30年度と比較して、肝炎ウイルス検診だけが上昇した。(玉山地域の受診率は、30年度と比較して胃がんと子宮がん、肝炎ウイルス検診が上昇した。) | ⇒ | <ul style="list-style-type: none"> ・肝炎ウイルス検診は、一部の対象者に無料クーポン券が発送されているために若干上昇した。 ・玉山地域においては、個別健診と集団検診が選択でき、自分に合った健診方法で受診出来ている。 |
| | | | | 問題点 | ⇒ | 問題の要因分析 |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・全体のがん検診受診率が年々減少している。 | ⇒ | <ul style="list-style-type: none"> ・受診率が減少していく確たる原因ははっきりしないが、以下の要因が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の意義が市民に伝わっていない。 ・健康にまだ関心が持てない若年層への啓発や受診勧奨が足りない。 ・青年期や壮年期の働き盛りの年代は平日受診が難しい。 ・乳がん検診、子宮がん検診の検診期間が長く、いつでも受診できるという意識になっている。 |

今後の方向性(令和2年度以降)

| | |
|--|--|
| 評価を踏まえた取組の方向性 | ★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討 |
| <ul style="list-style-type: none"> ★ 新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、可能な限り教室を開催する。 ★ 公募型協働推進事業との連携を図りながら、若年期や壮年期の健康づくりに力を入れていく。 ★ 得々ポイント事業の教室を増やすとともに、インセンティブの内容を検討していく。 ★ 「笑顔満快！盛モリ体操」のDVDを市民へ貸し出し、機会を捉えて普及していく。(玉山地域) | <ul style="list-style-type: none"> ☆1 感染症対策拡大予防のために、リモートでの健康教育の可能性の検討をしていく。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ★ 成人検診と国保特定健診と後期高齢健診の受診券を一枚にし、利便性を図る。 ★ 職域の検診である協会けんぽと情報を共有し、市民からの問い合わせに丁寧に対応する。 ★ 検診だよりを分かりやすく作成し、周知媒体をきちんと活用してPRしていく。 ★ 青・壮年期の年代に向け、SNSでの周知をしていく。 ★ 新型コロナウイルス感染症の予防に配慮しながら集団検診を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ★ 働き盛りの年代に検診の重要性を伝え、受診行動に結びつくよう、学校保健の行事や健康教育の際に、検診の必要性や健康管理の大切さを伝える。(玉山地域) ☆1 検診未受診者に対し、有効なコール・リコール等受診勧奨の方法を検討していく。 |